

# 発明の名称: 膀胱癌患者の予後検出方法

利用・用途・応用分野

無料開放特許

膀胱癌患者の予後の判定、患者の予後判定に大きく影響する治療方針を決定

目的・課題

膀胱癌患者の予後の判定方法は明らかにされていない。表在性膀胱癌は、より高分化、高浸潤性の癌に進展していく可能性が高く、高浸潤性の癌は、リンパ節転移や他臓器への転移の頻度が上昇するため、再発や進展を予測する手段の開発が望まれている。

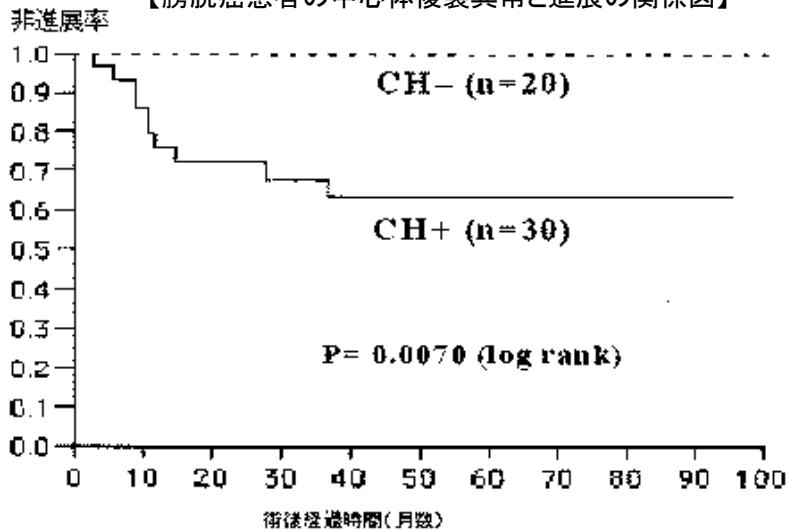
解決ポイント

①予後不良の膀胱癌患者の癌組織又は尿中の細胞には中心体複製異常が多く、染色体不安定性を誘導していること②中心体複製異常細胞が多く存在する膀胱癌患者は、少ない膀胱癌患者と比較して再発率及び進展の発生率が高いことを見出した。

研究概要・アピールポイント

細胞内中心体の複製異常を検出する方法及び予後判定用キットを用いて、中心体複製異常の有無を検出すると膀胱癌患者の予後の治療方針を決定できる。膀胱癌で中心体複製異常が検出された場合、術後に抗がん剤の投与、膀胱内BCG投与、放射線照射、内視鏡観察間隔の短縮など、再発及び進展予防の補助療法を処置できる。

【膀胱癌患者の中心体複製異常と進展の関係図】



◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp